

E V E N T R E P O R T

コロナ禍における分子研・総研大の広報活動

担当教員 2021年度担当教員

総合研究大学院大学 物理科学研究科 構造分子科学専攻 准教授 小林 玄器

分子科学研究所では、総合研究大学院大学物理科学研究科 構造分子科学専攻・機能分子科学専攻における大学院教育を担っている。分子研の研究環境、研究者養成と共同利用研究の実績を周知すると共に総研大における大学院教育への理解促進と学生確保を目的とし、オープンキャンパスと体験入学を毎年6月と8月に実施してきた。オープンキャンパスでは大学院進学希望者（学部4年と修士課程2年）が主な参加者であったのに対し、体験入学では、学部2-3年生が主体となることが例年の傾向であった。つまり、体験入学は、実質的に中長期的な視点で分子研・総研大を学生に紹介する場としての役割を担っており、体験入学→オープンキャンパス→総研大受験の流れだけでなく、他大学で学位取得後にポスドクまたは助教として働く可能性のある研究教育機関として分子研を紹介していた。しかし、この広報活動は、新型コロナウイルス感染拡大によって通常通りの実施が困難となり、大学院広報活動の方法を大きく見直さざるを得ない状況となった。本稿では、コロナ禍におけるオープンキャンパスと体験入学のあり方と現状について紹介したい。

感染防止の観点から、当然なが

ら多くの学生が同時期に集まるイベントの開催は避けなければならない。このため、昨年度から、オープンキャンパスをオンライン化し、体験入学は、感染者数が落ち着いていた時期に各研究室が個別に見学者や体験入学を受け入れる形で実施した（受入時期と感染症対策は岡崎三機関の規則に従った）。オンライン化に伴って、社会人の博士課程進学希望者や、遠方の大学からの参加者が増えたことが特徴的であった。気軽に参加できるというオンライン開催の利点の一つであろう。一方で、実際に研究室に足を運ぶ従来の開催方式に比べると研究所の雰囲気や伝えきれないという側面も浮き彫りになり、この課題への対応策として体験入学を活用した。体験入学という名前を残してはいるが、昨年度の多くは、興味を持った研究室を見学するための手段として利用された。オープンキャンパスから研究室見学を経て研究体験という流れで分子研に複数回来所する学生も見受けられ、各グループのスケジュールや参加学生の授業日程などを考慮したフレキシブルな対応が取れたことは利点であった。また、各大学における研究室配属の前に分子研を見学したいという要望に応えるため、1月には体験入学の

Web説明会を行い、春休み期間中に多くの見学者と体験入学を受け入れることもできた。分子研への進学に限らず、学生が自身のキャリアプランを考える上での一助になれば幸いである。

今年度は、昨年度と同様に、6月のオンラインでのオープンキャンパスと、通年で体験入学・見学の受入を行っている。コロナウイルスの問題はまだ解決までに時間を要することが予想されるが、分子研・総研大が大学院進学を考える学生の選択肢になれるよう、状況に応じて適切な対応をとっていきたい。

最後に、昨年度から本事業を共同で担当した古賀先生、杉本先生、奥村先生、南谷先生、総研大担当秘書の田中さんに深く感謝申し上げます。